

6. パフォーマンス分析サポートのまとめ

パフォーマンス分析サポートにおいて重要になるポイントとして、①どれだけの情報をフィードバックするか、②どのタイミング（即時か、後日か）にフィードバックする必要があるか、の2点を抑えておかなければならない。上記①および②の組み合わせによって、パフォーマンス分析の内容および方法が大きく異なってくる。

様々な鍛錬度および競技種目でのパフォーマンス分析サポートを総覧すると、「より限定的な内容のフィードバック」で「より即時的」なサポートが多くなってきている傾向にある。それに伴い、より取り入れやすい方法、より習慣化できる方法、より安価な方法、などが求められる傾向にある。それらの点を十分考慮した上で、サポート内容を検討していく必要があると考えられる。

スティックピクチャーなどを用いた動作分析は、トップオブトップ選手のパフォーマンス分析を行う上で、有効な方法となり得る。ただし、フィードバックされるデータは、より専門知識の必要とする内容であるために、それらのデータを選手もしくは指導者が理解できないことが多い、その後の活動に役立てられないような場合は、サポート実施を止めておいた方が良いかもしれない。なぜなら、動作分析にかかる被験者および験者の負担が大きすぎるためである。また、そのことは、データフィードバックの即時性を求められる方向と逆行しているためである。

近年の情報技術の急速な発展に伴い、今後、試合時およびトレーニング時の即時パフォーマンス評価（バイオフィードバック等）が盛んに行われるようになるであろう。それによって、試合およびトレーニング戦略における最適化、個別化などが大きく進むと考えられる。特に、映像情報技術を用いたサポートの中で、競技スポーツ独自の機械学習に着目したモデルの集積、最適化のための AI アルゴリズムの検討、ディープラーニングモデルの検討などが、パフォーマンス分析サポートにおいて求められていくであろう。それらの点に注力しながら、検討を進めていく予定である。